

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（2025年度）

法人名	宮城県高齢者生活協同組合	代表者	伊藤 恵仁	法人・事業所の特徴	元お鮎屋さんを改装した室内は、壁紙の和紙がほんのりとした温かみと明るさを醸し出し、笑顔こぼれる空間を作っています。そのなかで「暮らしたい場所でのいきいきとした生活を支え、おひとりおひとりの時間を大切にしたい介護をしたい」という思いで2017年に開所し9年目を迎えます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 いろり庵こぶし	管理者	伊藤 さよ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	5人	1人	1人	1人	人	3人	1人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	認知症基本法の解説を含む実践に結びつく勉強会、虐待防止法についての勉強会を行う。	認知症基本法の解説を含む実践に結びつく勉強会、虐待防止法についての勉強会はスタッフ会議の中で行うことができました。	テーマごとに具体的に把握されていてよかった。メンバーが理解を深める努力をし、共有していることが理解できています。全員に即伝わるようになっているのかわからない。	日常の支援場面を定期的に振り返り、利用者の対応について確認する機会を設け、支援判断は一人で完結させず、共有の場で確認する体制を意識していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	運営推進委員の方々に利用者様や職員の様子を見て頂く機会を作る。行事の案内を出し、新型コロナウイルス感染状況をみながら数人で参加していただく。	地域にチラシを配布してどなたでも参加できるようなアピールの夏祭り企画はよかったと思いました。	残念ながら一度も訪問できなかったもので、事業所のしつらえ・環境はわからない。	運営推進委員の方にこぶしに来ていただき普段の様子をみていただく。イベントのお知らせは随時行い、参加を促していく。
C. 事業所と地域のかかわり	こぶし便りの発行をする。掲示板の活用をする。	こぶし便りの発行は年1回のみでした。掲示板の活用は、職員募集や何も掲示されないなど、まだまだ不十分な場面がありました。	利用者が快適に生活してもらうために、地域行事を利用してもらえれば良いと思います。電話の応対がとても感じよく、安心できます。	「こぶし便り」を年2回以上発行していく。地域にあるお店や事業所、施設と一緒に企画をしながらこぶしの情報発信を行っていく。地域の班かいに出向いていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	感染予防に努めながら季節を感じる行事を継続する。軒下マップの充実を継続し連携していく。	年間の主たる行事、正月、書初め、節分、ひなまつり等の季節の行事は開催できました。軒下マップの連携は1事例ですが行うことが出来ました。	さまざまな行事を企画し、実践されているが、どのくらい地域との交流があるのか十分に理解できません。	利用者全員の軒下マップを作り、地域の行事に参加して、地域との関わりが作れるようにしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	写真も取り入れわかりやすい報告をする。	事業所からの現状の説明はわかりやすかった。行事などは写真での報告もありわかりやすかった。	事業所からの現状の説明はわかりやすく、写真があることで更に認識が深まりました。協議事項が少なかったかなと思いました。	事業所からの報告は事例を出しながら協議項目を設けながら、出された意見等をスタッフ会議で共有し生かしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	新型コロナの感染状況をみながら運営推進委員の方に避難訓練に参加いただく。地域の防災訓練には利用者様と職員と一緒に参加する。こぶしの防災計画を伝える。	運営推進委員の避難訓練への参加はありませんでしたが、報告では利用者の事を優先に考えて、避難の仕方、避難場所への安全な誘導などの取り組みが良く理解できました。寝たきりの方も避難できた事が良かった。	地域の防災訓練には対応していただいている。また、緊急時の事業所は頼りになる存在です。運営推進委員は残念ながら避難訓練に参加できませんでした。	利用者全員が安全で安心できるような避難訓練の実施を年2回実施する。地域の防災訓練に参加し、地域の方もこぶしの避難訓練に参加し、お互いに協力体制ができるように道筋を作っていく。